

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 2 月 17 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3894000102
事業所名	グループホーム あけぼの
(ユニット名)	うめ棟
記入者(管理者)	
氏名	木田 陽子
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 25 日

<p>【事業所理念】</p> <p>尊厳が守られ 安心し 楽しみある 自分らしい生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○ホームが地域ケアの拠点となるよう、外部への情報発信を目標に掲げ取り組んできたが、コロナ禍が続いており、地域の集まりや行事へ参加しての情報発信は行えなかった。 ○情報発信の一つの取り組みとして、推進委員メンバーにも毎月のホーム便りを送付し、ホームでの利用者様の様子や、行事等を知ってもらえるようにした。 ○ホームページは開設することが出来た。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>大きな公園の近くに事業所はあり、利用者や来訪者は、自然豊かな環境で、四季の折々の風景を感じることができる。令和2年1月に、事業所の経営法人が変更したものの、事業所の理念や方針、職員体制に変更はなく、継続して利用者一人ひとりの生活リズムを重視した支援が行われている。また、事業所には長年勤務している職員もおり、利用者一人ひとりのできることや役割、出番を見つけながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者は生き生きと過ごしている様子が印象的であった。さらに、コロナ禍においても、日常的に事業所周辺を散歩したり、感染状況を見計らいながら、計画的に花見などのドライブに出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう努めている。加えて、事業所内で運動会を開催したり、花火大会を開催したりするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。</p>
--	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人や家族様の希望を聞き、センター方式を用いて情報整理し、把握に努めている	◎	/	○	日々の支援の中で、職員は利用者から思いや意向を確認している。自分で意向を伝えることができない利用者には、家族から意向を確認するとともに、以前利用していた介護支援専門員等の関係者から情報収集することもある。また、ドライブ時に、自宅周辺で出会う近所の方から、生活歴や病気のことなどを聞くこともある。さらに、把握した内容はアセスメントシートなどに記載し、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思疎通が難しくなった場合は、これまでの生活歴やアセスメントを基に検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	以前は、面会時に確認していたが、コロナ禍となったことで、現在はSNSを活用している(LINE)	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々介護記録をとり、情報共有が必要なことは日誌へ記入している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意思疎通の難しい利用者様に関しては、その時々々の表情や、これまでのアセスメントを基に思いを汲み取るようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に、家族様や本人から情報を聞き、その後、日々の生活の中で知り得た情報は共有できるよう、記録に残している	/	/	◎	事業所では、センター方式のアセスメントシートを活用して、入居時や更新時に生活歴などの情報を聞き取りをしている。また、把握した情報をもとに、利用者の様子を観察しながら、約1週間をかけて24時間シートに生活状況を落とし込むようになっている。さらに、利用者毎の担当職員が、利用者の現状把握に努めている。加えて、入居後にも、日々の生活の中で、職員は利用者から情報を聞くように努めるとともに、家族や親戚、知人から生活歴などの情報を聞くこともある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	更新時やカンファレンス時には、センター方式のシートを活用し、把握している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関りの中で、快不快を表情の中から汲み取り、把握に努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	はっきりした原因が分からない場合でも、こうでないかな、という意見を出し合い、考えながらケアしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	センター方式の24時間シートを活用し、把握に努めている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人のニーズに基づいた計画を立てるよう心がけている	/	/	◎	事前に、担当職員等が利用者や家族から意見を聞くほか、把握した情報をもとに、「事業所でどう生活したいか」などの利用者の視点に立ち、職員間で検討をしている。また、定期的に、利用者や家族にも、希望やサービスの実施状況などを確認している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人の意思を尊重した計画を立て、それを基にモニタリングを行っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	明らかになった課題をもとにプランを立て、日々のケアを行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	3ヶ月毎のカンファレンスで見直しを行い、本人の思いや意向が変わっていないが評価している				事前に、計画作成担当者や利用者毎の担当職員が、利用者からより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などを確認するほか、家族から電話連絡やLINE機能を活用して意見を聞き、職員の意見やアイデアを出し合いながら話し合い、介護計画を作成している。また、事業所での生活が長くなっている家族からは、「事業所にお任せします」などの意見が多く出される傾向があり、職員から「キャベツの干切りができませんよ」などの意見を具体的に伝えると、「それを計画に入れてください」などと言われる、計画に取り入れた事例もある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	介護計画更新時には、現状報告を行うとともに、意向の確認も行ない、プランに反映できるようにしている。以前、料理を手伝わせて欲しいと希望されたご家族様があり、プランに取り入れた	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	これまでの生活歴や、入所後のホームでの生活を参考に、介護計画に取り入れるようにしている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	帰宅願望の強い利用者様には、ご家族様への電話協力を依頼している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	個人記録に計画書を挟み、記録ごとに確認するようにしている			◎	事業所では、利用者の経過記録ファイルに介護計画を挟み、職員は支援内容を確認しながら、記録できるようになっている。また、計画に沿ったサービスの実施内容は、分かりやすく記載されている。さらに、個別の経過記録には、利用者の様子や発した言葉などをそのまま記録に残すことができている。加えて、職員の気づきや継続して実施して欲しい内容などは、日誌にも記載され、職員間で情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録に基づいたケアが出来ているか分かるように、記録方法を工夫している				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	毎日個人記録をとっている。特記事項がある場合には日誌にも記録している			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	毎月のスタッフ会で、担当を中心に話し合うようにしている			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間の一覧表を作成し、それを基に、最大3ヶ月毎に見直しを行っている。			◎	介護計画の長期目標等は、1年または6か月で見直しをするともに、短期目標等は3か月に1回見直しをしている。また、毎月開催するスタッフ会の中で、利用者の現状確認などのモニタリングを実施している。状態の変化が見られた場合には、医師や看護師から意見をもらうほか、電話連絡やLINE機能を活用して、利用者や家族と話し合い、現状に即した計画の見直しをしている。さらに、入居時には、利用者の様子を確認しながら、1か月の期間で、計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のスタッフ会で現状確認と引継ぎを必ず行っている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	体調や身体状況に変化があった場合は、速やかにカンファレンスを開催し、計画書の見直しを行っている。その際は、家族様や担当医の意見も取り入れている			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月スタッフ会を開催している。緊急時は、その都度開催している			◎	月1回スタッフ会を実施し、職員間で話し合いをしている。また、事業所では、SNSの機能を活用してグループLINEを作成し、管理者が緊急案件と判断した場合には、LINE機能で緊急会議の開催を呼びかけ、休みの職員も参加してもらうことができている。さらに、参加できない職員には、スタッフ会は議事録を確認してもらうほか、緊急案件はグループLINEで、早期に重要事項を伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各棟の話し合いはリーダーを中心に行い、意見が出しやすいような雰囲気作りに努めている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表作成時、希望休のない日を設定している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録に残すとともに、口頭でも引き継いでいる			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	情報伝達には基本的に日誌を使用し、出勤時はまず日誌に目を通すようにしている。日誌に目を通すことで、申し送り事項が確認出来るよう、日誌も工夫している			○	事業所では、利用者の様子や家族からの申し送り事項、業務連絡など、工夫された日誌を活用して、申し送り等をしている。また、職員は出勤時等に確認し、確認後には自身の名前の下にチェックを行い、確実な申し送りに繋げている。さらに、緊急の重要事項は、グループLINE機能を活用して伝達をすることもある。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	確認したら、チェックを入れるように欄を設けている。また、家族様とのやり取りは、別紙に記入するようにしている。緊急な連絡事項については、グループラインを活用することとしている	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	朝食後のコーヒータイムの時間を大切にしている。何気ない会話から聞き出せることがある	/	/	/	利用者一人ひとりの日中の生活や活動は、職員が声をかけ、利用者自身に自己決定してもらえよう支援している。また、「体操をしたい、掃除をしたい、〇〇がやりたい、寝たい」など、利用者の希望は様々で、職員は一人ひとりの意向に沿って支援に努めている。さらに、事業所では朝食時間を8時と決めているものの、起床時間等の生活リズムに合わせて、無理強いはせず、10時まで朝食が食べられるよう対応をしている。中には、手伝いたい利用者があるものの、重度化等で難しいため、ペットボトルの蓋を100個用意して色分けをしてもらい、職員は「手伝ってもらって助かった」などの声をかけ、利用者の喜ぶ表情を引き出せるような工夫もしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	洋服を選んでもらったり、おやつの際には食べたいものを選んでもらっている。自己決定が難しい方には、視覚的・聴覚的な方法からも選んでもらっている	/	/	○		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その方に合った声掛けで働きかけるようにしている	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	集団生活であるため、ある程度のルールを設けているが、利用者様同士がトラブルにならない範囲で、その方のペースを優先している	/	/	/		
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	私の気持ちシート等を活用し、その方が活きた言動や表情を出せるよう努めている	/	/	◎		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日々の生活の中で、表情の変化から感じ取るよう努力している	/	/	/		
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	個々のプライバシーに配慮した対応を心掛けている。スタッフ同士が注意し合い、意識付けを行っている	/	◎	◎	○	勉強会等で、職員は「人権」や「尊厳」等を学び、理解して意識した支援に努めている。時には、業務多忙時で、つい大きな声を出してしまうことも見られる。また、不適切な行為や気になる行為が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、自己反省や再発防止などの対応を心がけている。さらに、耳の遠い利用者にはジェスチャーを用いたり、居室に移動してゆっくりと分かるように説明をしたりするなどの対応をしている。さらに、居室への入退室時には、利用者へ十分な配慮を行うほか、掃除や洗濯物の片づけで、居室に入る場合にも、必ず利用者に声をかけてから入室することができる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	排泄の失敗を見つけた際には、さりげなく誘導し交換している。また、人前では恥ずかしい話は、個別に話すようにしている	/	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	トイレや脱衣場が人目に付きやすい場所にある為、扉の前にも、のれんやロールスクリーンを使用している	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に不在の場合でも、ご本人に声掛けを行い出入りするよう心掛けている	/	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報漏えい防止は、スタッフ会での指導もあり、十分理解している	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来る範囲で役割を持ってもらい、掃除やお盆拭き等を行ってもらっている。元気な利用者様が多く、手伝ってくれるため、毎日助かっている	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、掃除など、利用者のできることに差が見られ、言い合いなどの利用者同士のトラブルも見られるものの、早期に職員は間に入るとともに、一人ひとりのできることをしてもらえよう配慮に努めている。また、利用者同士で洗濯物たたみなどを取り合いしないように、事前に家事は、利用者に分かるように担当表を作成して掲示をしている。さらに、毎週火曜日には、元保育士をされていた利用者が、体操や読み聞かせを行うなど、利用者同士で助け合いや支え合う場面も見られる。加えて、介護計画に、読み聞かせなどの支援内容も取り入れて、実践することもできている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	服を着せてくれることもあるが、危険がない限り見守っている	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	入浴を拒否する利用者様に対しては、仲の良い利用者様に声をかけてもらう等、助けてもらっている。また、気の合う利用者様同士で出掛けられるよう、配慮している	/	/	◎		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった際は、さりげなく距離を取る等、スタッフが仲に入り工夫している	/	/	/		

愛媛県グループホームあけぼの

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の情報を参考にしたり、入所後も会話の中から把握するようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の情報やアセスメント、日々の会話の中から情報収集し、知り得た情報は共有している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	コロナ禍となり、制限がある為以前と同じようにはいかないが、出来る範囲の中で、馴染みの場所にドライブに出掛けている。先日、出掛けた先で2年ぶりに姉に合うことが出来、涙されることがあった				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	コロナ禍となった後も、感染状況をみながら、出来る限り対面での面会を続けている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	外出支援をケアプランに取り入れ、スタッフ皆で達成できるよう支援している。外出先は出来る限り、ご本人の希望に添える場所を計画している。車椅子の方や、重度の方は、ホーム周辺を散歩する等工夫している	○	△	○	コロナ禍においても、日常的に事業所周辺を散歩したり、感染状況を見計らいながら、計画的に花見などのドライブに出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう努めている。また、正月には、毎年恒例となっている初詣に、利用者全員で出かけることができた。中には、介護計画のサービス内容等に、買い物支援を位置づけている利用者もおり、短時間で近隣の物産販売所に出かけられるよう支援している。さらに、重度の利用者も、天気の良い日にはテラスに出て、外気浴をすることができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	コロナ感染状況により、中止になることもあるが、地域のサロンが開催される時には参加している				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	テラスで過ごしたり、近場へ散歩に出掛けたりと、外気に触れる機会を作っている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	利用者様の行きたい場所や寄りたい場所へ、可能な限り出掛けている。自宅へ外出する際には、家族様の協力を得ている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個々に合った声掛けや対応を行っている。決して否定はせず、安心できるような対応を心掛けている				事業所では、「やれることは、みんなでやってもらおう」の考えで、職員は一人ひとりに応じた支援に取り組んでいる。また、職員は利用者一人ひとりの「できること、できそうなこと」を把握し、手や口を極力出さずに、見守りや待つ介護に努めるとともに、場合により一緒に行うようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活がリハビリとなるよう、レクの内容を工夫している。また、遊び感覚で出来る、脳トレも活用している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは見守りし、出来ないことを手伝うようにしている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者個々の違いや能力を理解し、その方に合ったお手伝いをお願いしている				洗濯物干しやたたみなどの家事の役割分担や、献立の記載など、事業所ではほとんどの利用者に役割を担ってもらい、感謝の言葉を伝えている。また、洗濯物干しの際に、衣類のしわ伸ばしができない利用者にも、他の利用者がしわ伸ばしを手伝うなどの助け合う場面も見られ、職員は少しでもできる役割づくりに取り組んでいる。さらに、習字の上手な利用者には、職員の子供の書き初めの手本を書いてもらうなどの出番づくりもできている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	食事の下ごしらえ、後片付け、洗濯物干し・たたみ等、その方が得意としているお手伝いをお願いし、やりがいを感じてもらえるよう支援している	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	感染状況が落ち着いている時には、地域のサロンに参加している				

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人が希望する化粧品やクリームを購入し、本人も満足し、使っている				整容の乱れや汚れなどが見られた場合には、職員はさりげない支援に努めている。また、重度な利用者にも、家族に好みの髪形や服装などを聞き、本人らしさが保てるよう工夫しながらより良い支援に努めている。さらに、自分で髭剃りができる利用者には鏡の前でしてもらうとともに、利用者にてできるところまでしてもらい、職員が剃り残しなどのフォローをしている。加えて、2か月に1回、訪問美容の来訪があり、髪型を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	訪問カットを利用し、カットしてもらっている。意思表示ができる利用者様は、好みを伝えカットしてもらっている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	アドバイスをしたり、数枚の中から選んでもらったりしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族様からのプレゼントを着用してもらったり、華やかな物を着用してもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	朝は食事前に全員に温かいおしほりを準備し、顔を拭いてもらっている。身だしなみに細心の注意を払い、清潔感が保てるようにしている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	現在はコロナ禍であり支援で出来ていないが、以前は本人の希望に沿った店に行っていた				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	これまでの生活歴から知り得た、本人の好み等を考慮している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事形態や、高齢者の食事に関する研修に参加し、理解を深めている				栄養委員である職員が、利用者の好みや食べたい物などを確認しながら、献立の作成と食材の買い物を担っている。利用者は、野菜を切ったり、味見をしてもらったり、お盆拭きをするなど、できることを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。生魚などが苦手な利用者には煮つけなどに変更するほか、アレルギーのある利用者には、代替品を用意している。節分には、巻きずしを利用者と一緒に関わったり、季節を感じながら、食事が楽しみになるような工夫にも努めている。食器は、利用者自身に使い慣れた物を持参してもらうほか、湯飲みは利用者が飲んだ量が分かるように、事業所で用意した物を使用している。現在のコロナ禍において、食事の際に、職員は黙食で、サポートや見守りをしながら、利用者と一緒に食事を摂ることができている。また、調理時には、利用者は食堂で過ごすことが多く、匂いや調理風景を見て、食事が待ち遠しくなるような雰囲気を感じることができている。さらに、定期的に、栄養委員会の中で調理方法を職員間で話し合い、栄養バランスに偏りがないよう配慮している。加えて、栄養士までには相談していないものの、治療食などは主治医に相談しながら対応することができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	手伝ってもらえる下ごしらえや片付け等は協力してもらっている。その場合は、得意とすることをやってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	手伝って頂いたら、労いの言葉や感謝の言葉を掛けている。利用者様も笑顔になり、達成感に繋がっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	理解しており、個々に合わせた調理法、メニューで提供している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	旬の食材を取り入れている。また、昔ながらの郷土料理を取り入れ、一緒に調理している			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々の嚥下状態、その日の嚥下状態に合わせた形態で提供している。美味しそうな彩りや、盛り付けを心掛けている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時は使い慣れた物の持参をお願いしている。状態に変化があれば、状況に合わせた物を使用するようにしている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	サポートが必要な利用者様の近くに座り、必要に応じて介助している。コロナ禍となり、談笑しながらの食事風景はなくなってしまい、残念に感じている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	献立の話題で話しかけたり、介助する際には、メニューを説明しながら介助している	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分が摂りにくい利用者様に対しては、食事前に提供したり、ムセのある方に対しては、トロミ付けやゼリー状にしたりと、工夫している。摂取量は、毎日個別に記録し、把握している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	栄養補助食品や経口補水液を取り入れ、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。必要に応じて、主治医の指示を仰いでいる				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	メニューは、スタッフが交代で考えている。栄養士のアドバイスは受けていないが、栄養委員が見直しを行い、メニューや栄養に偏りがないよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板、包丁は食材ごとに使い分け、使用后必ず消毒を行っている				

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	町が開催する口腔ケアの研修に参加し、理解している				職員は、勉強会等で口腔ケアの重要性を学び、理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は洗面台で歯磨きなどの口腔ケアを実施している。また、利用者一人ひとりの口腔内状況を、職員間で情報共有できているものの、書面にまでは残すことができていない。歯科を受診している利用者は、歯科医から状況記録の提供を受けることができています。さらに、事業所では、自分で歯磨きをしている利用者の口腔内の状況を、「職員が1日1回はチェックをする」と決めたものの、実現が難しいため、1週間に1回程度に回数を減らすなど、定期的に全ての利用者の口腔内を確認し、記録に残せることを期待したい。加えて、異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げるなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めることを期待したい。		
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の不具合、虫歯の症状あれば、歯科受診へ繋げている					△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	予防歯科を定期受診している利用者様がおられ、スタッフ間で情報を共有できている						
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は全員の義歯を預かり、入れ歯洗浄剤を使用している						
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来る範囲の手入れは行ってもらっている。難しい方に対しては、使用用具を工夫しながら支援している(舌ブラシ・口腔ケアウエットティッシュ使用等)						○
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	本人から訴えがあった場合や、義歯の不具合を見つけた場合は、すぐに歯科受診へ繋げている。受診の難しい方に対しては、訪問歯科を利用することもある						
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだことを日々のケアに取り入れている				入居時に、紙パンツを履いている利用者が多いものの、事業所では一度布パンツで過ごしてもらい、排泄状況の確認を行うほか、利用者に合わせた排泄用品の使用や必要性を見極めている。また、事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、職員は声かけやトイレ誘導をしている。中には、夜間にポータブルトイレを使用するほか、夜間のみテープ止めのオムツを使用している利用者もいる。さらに、排泄委員を中心に、適切な排泄用品の使用を話し合うほか、毎月の排泄用品の料金も合わせて検討をしている。		
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事内容や水分量、活動量等が関係することを理解しており、個々に応じた予防や改善に努めている						
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日のチェック表を記入することで、個々の排泄パターンを把握出来ている						
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々の排泄パターンに合わせた声掛け、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄が続けられるよう支援している		◎			◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事・水分摂取量、身体状況からも探り、検討している						
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定時での誘導だけでなく、排泄のサインが現れた場合等、個々に合わせた誘導を行っている						
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄委員が中心となり、定期的に検討している。本人から希望があった場合には、実際に試してもらい、その後検討している						
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	注文は個別で行い、月末に使用数を集計している						
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	起床時の水分補給、乳製品の摂取、運動を日常的に取り入れている。必要に応じて薬を処方してもらっている						
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	集団生活であるため、週3回の入浴が出来るよう、基本的な入浴日は決めている。入る順番等は、その日に臨機応変に対応している		◎		○	週3回、利用者は入浴することができる。中には、体調面を考慮して、週2回に入浴制限をしている利用者もいる。希望者には、毎日の入浴にも対応可能としているものの、現在そこまで希望する利用者はいない。また、事業所として、入浴できる曜日や入浴できる時間帯を15時30分から17時30分の間と決めているものの、入浴の順までは決めておらずに、その日の利用者に決めてもらっている。さらに、入浴を拒む利用者には、日にちや時間帯を変更するなどの工夫をしながら、入浴してもらうことができています。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	会話を楽しみながら、ゆったりとした気分が入浴出来るよう支援している						
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人が出来ることは任せ、出来ない部分を介助しながら、安全に入浴できるように努めている						
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声掛けやタイミングを工夫している。拒否の強い場合には無理強いせず、時間や対応スタッフを変更する等工夫している						
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴までにバイタル測定を行い、健康状態を確認している。入浴時には全身状態の確認を行っている						

愛媛県グループホームあけぼの

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の個人記録から把握している。入所時は24時間シートを活用し、パターン把握に努めている				眠剤などを服用している利用者があるものの、体操や散歩、日光浴などを取り入れながら、ほとんどの利用者は、夜間に良眠することができている。中には、入居前から眠剤を服薬していた利用者が、睡眠状況を確認し、医師と相談しながら、服薬を止めることのできた事例もある。また、夜間不眠を訴える利用者には、職員がその都度対応をしている。さらに、不眠が続く場合には、体調面を考えて、主治医に相談をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中傾眠傾向の利用者様に対しては、昼夜のリズムが整うよう、外気に触れる機会を作ったり、歩行運動を積極的に取り入れている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	基本的には睡眠導入剤は服用していない。服用する際は、主治医の指示を仰いでいる				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体操やレクの時間には声掛けを行うが、基本的に自由に休息をとってもらっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば対応している。毎月のお便りに、一筆添えてもらえるよう、支援している方もいる				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	書けない方に対しては、スタッフが代筆している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	静かで、人がいない場所でやり取りが出来るよう、配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いたものは一緒に確認している。また、いつでも見返せるように飾ったり、ファイリングしたりしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	毎月のお便り等で協力依頼している。現在は、LINE電話を積極的に活用している				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	規則で、お金は事務所管理となっている。希望時は、スタッフ付き添いのもと、自由に使うことができる				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	コロナ禍でめっきり回数は減ったが、個別に買い物の機会は設けている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	スタッフが同行し、必要な支援を行っている。出来る限り、馴染みの店に出掛けられるようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	個人の金銭所持は認めていない。入所時にご家族様に説明し、了承して頂いている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に了承のもと、事務所管理としている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	使用内容、金額を個別の出納帳につけ、毎月ご家族様へレシートと共に送付している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	突然の外出や地域外の緊急受診にも、ご家族様と協力しながら、出来る限り対応している		◎	○	コロナ禍以前は、町外の病院受診は家族の同行支援をお願いしていたものの、現在コロナ禍において、状況に応じて、職員が同行するなどの工夫をしている。また、現在のコロナ禍において、外出や面会に制限があるものの、介護計画の中に希望や要望を取り入れながら、可能な範囲での対応に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	花壇等には季節の花を植え、利用者様と一緒に手入れしている	◎	◎	◎	事業所の玄関は、駐車場を挟んで道路から見える場所にあり、気軽に入 入りができる雰囲気となっている。また、玄関先やテラスには季節の花が植 えられ、手入れが行き届いていた。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共有スペースには、四季折々な飾り付けを行っている。利用者様の作品を飾るスペースを設けて いる	◎	○	◎	共有空間は、掃除や消毒が行き届き、快適な空間となっている。玄関には 雑飾りが置かれるなど、季節に応じた飾り付けが行われている。また、食 堂に面するトイレの前には、スクリーンカーテンが設置され、トイレの出入 りは見えないような工夫をしている。さらに、事業所では壁を装飾する担 当職員を決めており、雑飾りの刺繍のタペストリーや利用者の書初めなど の飾り付けをしている。加えて、手作りの日めくりカレンダーが設置され、 毎日利用者が日付を変更している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の清掃で清潔保持に努めている。日差しがきつい季節には、テラスや居室窓にシェードを設 置している					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節折々の花や飾り物を、玄関や共有スペース、テラスに飾り、散歩をする際に触れ合えるよう な環境づくりをしている					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	居間のソファは、席を決めずに思い思いの場所に座ってもらっている。気の合う同士が近くに 座り、会話やテレビ鑑賞を楽しんでいる					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	居間や食堂に面している場所にある為、ロールスクリーンやのれんを設置し、見えにくい工夫を 行っている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている。	○	入所時に持参された思い思いの物を置いている。仏壇やお位牌を持参されている利用者様もい る	◎		○	居室には、利用者が使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができる。中には、家族写真や仏壇、専用の椅子を持ち込み、利用者に合わせて空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	タンスにはラベルを貼り、整理整頓しやすい工夫している			◎	食堂のテーブルの利用者が座る場所に、家族写真をテーブルクロスの下に敷き、席を間違えないような工夫をしている。また、利用者が迷わないように、分かりやすいトイレなどの表示をしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	各居室入口には表札を設置している。また、共有のトイレや浴室も分かりやすいように表示して いる					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	毎日の掃除が日課の利用者様の居室には、ほうきとちり取りを目につく場所に置き、いつでも使 用できるようにしている					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	22時～6時までの夜間については、防犯対策として施錠しているが、それ以外の時間帯については施錠していない。ユニット間の出入りも自由に行える	◎	◎	◎	代表者や管理者、職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関やユニットの出入り口の施錠はしていない。また、夜間は防犯のため、22時から7時まで玄関の施錠をしている。さらに、日中は玄関が開くとチャイムが鳴り、職員は利用者や来訪者の出入りを把握しやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	施錠しない取り組みの説明を行うと共に、それに伴う離脱のリスク等についての説明も行い、同意を得ている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	各ユニットから玄関の出入りが見えにくいいため、人の出入りが分かるよう、チャイムを設置している。外出傾向のある利用者に対しては、常に居場所の確認と把握を行っている					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	常に把握しておくのは困難である為、全ての利用者様の情報を1冊にファイリングしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	個人記録に記入すると共に、いつもと違った様子があれば、引継ぎをしっかりと行っている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	かかりつけ医、薬局を統一することで、いつでも相談できる関係性が築けている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ホームのかかりつけ医はあるが、家族の希望する医療機関への受診も行っている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族が遠方であったり、受診介助が難しい場合は、ホームの協力医療機関を紹介し、ホームが受診介助を行っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	協力医療機関への受診は基本ホームで対応しているが、主治医からの説明がある場合には家族同行をお願いし、主治医から直接説明が聞けるような環境を整えている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は速やかにサマリーを提出し、ホームでの様子や対応方法が分かるよう、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の状態把握に努め、家族様とも連絡を取り、医療機関と相談しながら、早期退院できるよう努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	受診時には病状だけでなく、普段の様子や対応方法も伝えている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週2回看護師が勤務しており、利用者様の変化や気づき等は、日々の記録から把握できるようにしている。また、緊急時には電話連絡し、指示を仰いでいる				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師、協力医療機関、薬局にいつでも相談できる体制を整えている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル測定や引継ぎ等で状態変化を知り、些細なことでも記録、引継ぎを行うことで、早期発見・治療に繋げている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	受診記録や服薬状況を確認することで、理解している。1冊のファイルにまとめ、いつでも手に取れる場所に置いてある				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬はホームで管理し、服薬介助時には名前を読み上げ、誤薬防止に努めている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服に変更があった場合は引継ぎを行い、いつもと変わった様子が見られた場合には、主治医や薬剤師に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方内容に変更があった場合には、日誌でも引継ぎ、服薬後の様子観察・記録を行っている。必要に応じ、情報提供している				

愛媛県グループホームあけぼの

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に、その時点での終末期の意向を聞き、看取り指針について大まかに説明している。状態に変化があった場合には、その都度意向を聞くようにしている	/	/	/	事業所には、「グループホームにおける重度化および看取りに関する指針」があり、入居時等に管理者が家族に、「家と同じように過ごし、穏やかな最期が過ぎるように支援します」などと説明をしている。事業所では、看取り介護に対応しているものの、この一年間に支援した利用者はいない。また、診察や往診時に、医師が看取り介護の必要性を判断した場合には、医師から家族に説明を行うとともに、対応方法などを職員と家族で話し合いをしている。さらに、法人・事業所として、対象者の手順書の作成があり、職員は手順書に定められた支援方法を確認しながら、対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご本人、家族の意向を踏まえた上で、主治医に相談している。その後、主治医、家族を交え、今後について決め、スタッフで情報共有を行っている	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態に変化がある度に話し合いの機会を持ち、スタッフの負担が軽減するように努めている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	「できること・できないこと」を明確にし、説明している。対応方針については、看取り指針の内容に沿って説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者様の受診については、主治医や家族と相談の上、往診に切り替えている。状態に変化があった時には、些細なことでも報告し、いざという時に備えている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	心配事や不安があれば、相談にのり、不安が少しでも軽減できるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症の研修には必ず参加し、学んだことをスタッフ会や研修報告書にて共有している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症マニュアルがあり、定期的な見直しと訓練を行っている。新型コロナウイルス感染症マニュアルも作成している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新情報の入手は出来ている。必要な情報は、スタッフに周知している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域の感染状況を早期に確認し、早めの対策をとるよう徹底している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	新型コロナウイルス感染症が流行したことにより、感染予防が当たり前の日常となった。来客者についても、感染予防の徹底をお願いしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	スタッフと利用者家族という立場ではあるが、本人にとってどうかという視点で一緒に支えていけるような関係づくりに務めている				コロナ禍において、家族が事業所に来訪する機会はないものの、リモート機能を活用したオンライン面会に対応するほか、事業所内で実施した敬老会やクリスマス会などの行事の写真を送付し、利用者の近況を伝えていく。感染縮小期には、ベランダなどの屋外で、制限を設けたうえで、家族との面会対応もしている。また、家族には、SNS機能のLINE登録をしてもらい、動画撮影をした利用者の様子を配信できるようになり、家族に喜ばれている。さらに、毎月、事業所便りを作成し、コメントを添えて家族に送付している。令和2年1月に、事業所の経営法人が交代した際にも、事業所便りの号外を作成し、挨拶などを掲載した事業所便りを送付している。事業所では、LINE機能を活用して、家族との連絡を取り合う機会が増え、家族から「連絡が取りやすくなった」などと好評を得ている。加えて、LINEでの連絡が難しい家族には、今までどおり、電話連絡で対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍で面会制限が当たり前となり、気軽に訪れることが出来ない日々。取り入れているオンライン面会が気軽にできるよう、毎月のお便りなどでお知らせしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ禍となって以降、これまで行っていた家族参加の行事は開催出来ていない		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の便りに、コメント欄をつくり、担当者から直筆で報告している。また、SNSやオンライン面会を取り入れたことで、手軽に写真を送ることが可能になったり、遠くの家族様とも顔を見て話ができるようになった		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご本人の状況報告だけにならないよう、家族様の意向や不安も聞くようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	良好な関係性が保てる距離感を大切にしている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	スタッフの入れ替わりや施設運営の変更点などは、毎月のお便りにて報告している		◎	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族様を招待しての行事の時間が交流の場となっていたが、現在はできていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	事故報告が出た場合には速やかに報告すると同時に、今後の対応策や起り得るリスクについても説明している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	SNSを取り入れたことにより、気軽に連絡が取りやすくなったと感じる。また、同じことを家族様からも言われた			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時、契約書及び重要事項説明書の内容に沿って説明を行い、理解を得ている。その他、内容に変更があった際には、書面にてお知らせしている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	体調悪化からホームでの対応が困難となり退居した事例があるが、家族・主治医・関係スタッフで十分な話し合いを行い、決定した				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	内容に変更があった場合は、その都度文章にてお知らせしている。問い合わせがあった場合に対応が出来る体制を整えている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時には、当初の事業主が説明を行っている。令和2年に事業主が交代した際には、説明した	/	○	/	コロナ禍においても、事業所では感染対策を講じながら、婦人会主催の地域サロンに、毎回4～5名の利用者や職員が参加し、交流することができている。また、事業所周辺の散歩時には、あいさつや会話を交わしたりしている。さらに、事業所は、小・中学校の通学路に面しているため、利用者は登下校の様子を見守ることができている。加えて、今年度から、地区の区長と民生委員が交替したため、管理者は、「今後、積極的に関わりを持っていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域サロンが開催される際には、感染対策を徹底しながらの参加を継続している。顔なじみとなった地域の方とは、日常的に挨拶や会話を交わしている	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議の方や婦人会の方を通じて、支援の輪が広がっている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	登下校中の小・中学生が気軽に挨拶をしてくれたり、手を振ってくれたりしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ウォーキングされる方や、犬の散歩をされる方と挨拶を交わしたり、短い会話をしたり、日常的なお付き合いが出来ている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	コロナ禍となり、ホームに招いての交流の機会はなくなってしまったが、婦人会の方が、クリスマスにケーキを持って来てくれるようになった	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域サロンへの参加だけになってしまったが、今後もできる限り参加し、交流の場を提供していきたい	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地元の良心事に買い物へ出かける際には、協力を得ている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	推進会議には、地区の方を中心とした参加がある。感染防止の観点から、ホームでは開催せず、地域のコミュニティセンターを借り、開催するようにした	x	/	△	運営推進会議は、家族や区長、民生委員、保育所、サロンの代表、近隣住民、町担当者等の参加を得て開催している。令和3年度はコロナ禍で感染予防のため、地域のコミュニティセンターを活用して、集合形式で会議は2回実施できたものの、残りは書面開催となっている。会議は、事業所外で開催したため、感染対策で、利用者は会議に参加していない。また、家族には会議の説明までは行うことができたものの、コロナ禍となり、その後の対応までには至っていない。さらに、議事録は事業所玄関に配置し、閲覧を可能としている。加えて、会議の中ではあまり参加メンバーから意見が出されないため、会議終了後の雑談で、管理者は意見や要望を聞くようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	ホーム近況報告や利用者の入退居状況等について報告し、外部評価実施後は、評価結果や目標達成計画について報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告にならないよう努めている。ホームからの報告が終わった後の、雑談の時間を大切にしている	/	/	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	予定が立てやすいよう、年度初めに開催日を決めている(偶数月の第4木曜日)講師を招き、オンラインでの勉強会を行った	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	ホーム玄関に置いており、いつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は玄関ホール、各棟の入り口に掲げ、常に意識し、理念に沿った支援が行えるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	毎月のお便りに理念を書き入れるようにした。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修への参加希望の際には、優先的に勤務調整を行っている。	/	/	/	昨年末に、代表者は全ての職員と個人面談を実施し、意見や要望等を聞くことができています。法人として、毎月管理者会を開催し、管理者は代表者と話す機会があるほか、代表者は毎月実施する事業所のスタッフ会にも参加するとともに、来訪時には利用者や職員に声をかけています。今後も、個人面談を継続して実施するなど、職員のストレスの軽減や働きやすい職場環境づくりに努めることを期待したい。さらに、2か月に1回、オンライン機能等を活用した勉強会を実施するなど、職員のスキルアップに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月のスタッフ会で勉強の機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	個人面談の機会を設けてくれたことで、意見は言えたが、希望する給与水準には達していないのが本心。今後も意見を出し合いながら、良い関係性が気づけて行けたらと感じている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	オンラインの研修がほとんどとなってしまったが、希望する研修には参加させてくれている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	代表者交代時には意見交換がなかなかできなかったが、スタッフが思いをぶつけたことで少し良い方向へ改善されたのではないかと思う。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	権利擁護の研修に参加し、理解できている。	/	/	/	職員は、不適切なケアが見過ごされることがないように、意識したケアに努めるとともに、気になる行為を発見した場合には、職員同士が注意し合える関係性が構築されている。また、注意しにくい職員には、管理者に相談するように伝えている。さらに、報告を受けた管理者は、該当職員に確認し、注意喚起をしている。事業所では、明確な手順書などの仕組みづくりまではできていない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	全体で話し合うべきことは、スタッフ会の議題にあげ、見直しを行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉遣い、声のトーン等、不適切なケアについては、スタッフ間で注意し合うようにしている。改善が見られない場合は、上司に相談し、話し合いの機会を設けている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調不良時等は、休養が取れるよう配慮してくれている。管理者は現場のことを理解している。代表者にも、もっと現場を知ってもらいたい思いはある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に勉強会を開催することで、理解に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月毎に身体拘束等適正対策委員会を開き、見直しを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行うことで起こる、本人に与える影響を理解して頂けるよう、説明するとともに、身体拘束を行わないことで起こり得るリスクについても説明している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度があることは知っていたが、現在まで該当者がなく、学ぶ必要がなかったため、積極的な理解はない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要であれば、管理者が対応している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要であれば、紹介できる体制は整えている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルはいつでも確認出来るようにしているが、適宜検討は行っていない				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	毎年、救急訓練を受講し、AEDの使用方法についても学んでいる				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	些細なことであっても報告書を記入し、話し合いを持ち、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	報告書や日々の生活から考えられるリスクを把握し、その都度話し合いの機会を持つことで、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルの見直しを行っていなかったため、今年度、見直しを行った				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しての窓口を設け、マニュアルに沿って対応が出来るようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、速やかに話し合いを行い、改善方法について話し合うことになっている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日ごろの会話から聞き取っている。代表者にも、利用者様と関わる時間を持ってもらっている			○	日々の支援の中で、管理者や職員は、利用者から意見を聞き、対応をしている。事業所には、自分の意見を伝えることのできる利用者が多く、代表者に直接「便座が冷たい」などと伝えることもある。また、家族には、面会時に直接意見を聞くほか、電話連絡やLINE機能を活用して、意見や要望を伝えることのできる機会を設けている。さらに、管理者は職員と一緒に業務をしており、日常的に職員から意見を聞くことができています。管理者は、「利用者の立場に立った支援ができています」と感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	プラン更新の際には、必ず要望や意向を聞くようにしている。現在は、電話だけでなく、SNSを活用している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居時に説明しているが、適宜の情報提供は行っていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	毎月のスタッフ会への参加はある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	スタッフ会、利用者カンファレンスで検討している			○	

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価で確認している				外部評価は、管理者や計画作成担当者を中心に、各ユニットで作成している。また、サービスの評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告をしている。新たに、法人・事業所として、ホームページを作成し、会議の中で報告をしている。コロナ禍において、取り組み状況の確認などのモニター機能の協力までには至っていないため、コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけたり、来訪時に、サービスの取り組み状況などの意見をもらったりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題についてはスタッフ全員で改善に向けた取り組みを行っている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	達成に向けた取り組みを行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果については、推進会議の際やご家族様への文章にて報告している	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	スタッフ会、推進会議で、取り組みの確認と見直しを行っている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、必要に応じて見直しを行っている				定期的に、事業所では避難訓練等を実施している。また、運営推進会議の中で、地域住民や消防署等と大雨の災害時の避難などを話し合う機会を設けることができる。さらに、法人・事業所として、災害時の連絡網は作成することができている。事業所では、災害発生時に、地域の協力・支援体制までは構築できていないため、コロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力をしたり、運営推進会議を活用して、避難訓練を実施したり、事業所の訓練に地域住民や家族の参加を呼びかけるなど、少しずつ協力的体制づくりができることを期待したい。加えて、利用者家族等アンケート結果から、家族や地域住民から、災害への備えの十分な理解が得られていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、訓練の様子を周知したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲載したりするなど、職員間で周知方法を検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間想定の避難訓練、その他非常災害を想定した訓練についても、定期的に行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備の点検は、年2回業者をお願いしている。非常用食料や備蓄品については、一覧表を作成し、点検している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進委員メンバーに協力をお願いしている。また、今年度から、月1回地域ケアの研修に参加することになった	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域ケアの研修に参加し、情報交換をしている。今年度は、オンラインでの開催となっている				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域サロンに参加した際、ホームで行っている体操やレクを紹介している				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	利用者様家族が認知症となっているが、現在も独居での生活を続けている方がおり、そのご家族様の相談にのっている		×	△	事業所では、利用者家族の相談支援を行っている。事業所が地域のケア拠点としての取り組みを啓発できるように、地域サロンなどを活用しながら、地域の高齢者や認知症の人、その家族等の相談対応ができることを、周知されることを期待したい。また、地域のグループホーム主体で、地域住民が参加できる研修会の開催を計画していたものの、コロナ禍において、開催までには至っていないため、管理者は、「コロナが落ち着けば、活動していきたい」と考えている。さらに、町行政等との連携に努めている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍であり、行えていない。また、利用者様が過ごす生活スペースが狭く、現実的に難しい				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	現在はなくなってしまったが、学校の福祉体験に協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	依頼があれば、地域のイベントには積極的に参加している。現在はサロン参加しか出来ていないが、コロナ禍が落ち着けば、参加していきたい			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 2 月 17 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3894000102
事業所名 (ユニット名)	グループホーム あけぼの もも棟
記入者(管理者) 氏名	木田 陽子
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 25 日

<p>【事業所理念】</p> <p>尊厳が守られ 安心し 楽しみある 自分らしい生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○ホームが地域ケアの拠点となるよう、外部への情報発信を目標に掲げ取り組んできたが、コロナ禍が続いており、地域の集まりや行事へ参加しての情報発信は行えなかった。 ○情報発信の一つの取り組みとして、推進委員メンバーにも毎月のホーム便りを送付し、ホームでの利用者様の様子や、行事等を知ってもらえるようにした。 ○ホームページは開設することが出来た。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>大きな公園の近くに事業所はあり、利用者や来訪者は、自然豊かな環境で、四季の折々の風景を感じることができる。令和2年1月に、事業所の経営法人が変更したものの、事業所の理念や方針、職員体制に変更はなく、継続して利用者一人ひとりの生活リズムを重視した支援が行われている。また、事業所には長年勤務している職員もおり、利用者一人ひとりのできることや役割、出番を見つけながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者は生き生きと過ごしている様子が印象的であった。さらに、コロナ禍においても、日常的に事業所周辺を散歩したり、感染状況を見計らいながら、計画的に花見などのドライブに出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう努めている。加えて、事業所内で運動会を開催したり、花火大会を開催したりするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>日々の会話の中から、思いを汲み取るように努めている</p> <p>把握するのが難しい利用者様もいるが、「本人はどうか」という視点を常に意識している</p> <p>家族様とは、電話やLINE等のSNSを利用し、やり取りしている</p> <p>日々の出来事や会話を記録に残し、共有している。入所時や更新時にはセンター方式を取り入れている</p> <p>時として見落としもあるが、日々努力している。意思疎通の難しい方に対しては、生活歴や家族様からの情報を参考にしている</p>	◎	/	○	<p>日々の支援の中で、職員は利用者から思いや意向を確認している。自分で意向を伝えることができない利用者には、家族から意向を確認するとともに、以前利用していた介護支援専門員等の関係者から情報収集することもある。また、ドライブ時に、自宅周辺で出会う近所の方から、生活歴や病気のことなどを聞くこともある。さらに、把握した内容はアセスメントシートなどに記載し、職員間で情報を共有している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>家族様や、入所前まで利用していた事業所スタッフやケアマネから情報を得、スタッフで共有できるようにしている</p> <p>日々状態は変化してくるため、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。また、毎月のスタッフ会で現状把握と情報共有できるようにしている</p> <p>日々の関りの中で把握に努め、変化があれば申し送りを行っている</p> <p>引継ぎ時や話し合いの場で、不安要素を見い出せるようにと努めている</p> <p>日々状態は変わるため、その時々合った対応をしている。状態に大きな変化があった場合は、24時間シートを活用し、再把握している</p>	/	/	◎	<p>事業所では、センター方式のアセスメントシートを活用して、入居時や更新時に生活歴などの情報を聞き取りをしている。また、把握した情報をもとに、利用者の様子を観察しながら、約1週間をかけて24時間シートに生活状況を落とし込むようになっている。さらに、利用者毎の担当職員が、利用者の現状把握に努めている。加えて、入居後にも、日々の生活の中で、職員は利用者から情報を聞くように努めるとともに、家族や親戚、知人から生活歴などの情報を聞くこともある。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>カンファレンスでは「本人にとってどうか」という視点で検討している</p> <p>日々の引継ぎで情報を共有し、カンファレンスの時に必要な支援を検討している</p> <p>明らかになった課題をもとにプランを立て、日々のケアを行っている</p>	/	/	◎	<p>事前に、担当職員等が利用者や家族から意見を聞くほか、把握した情報をもとに、「事業所でどう生活したいか」などの利用者の視点に立ち、職員間で検討をしている。また、定期的に、利用者や家族にも、希望やサービスの実施状況などを確認している。</p>

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いを伝えられない利用者様が現在は多いため、日々の関りの中から思いを汲み取り、反映するようにしている				事前に、計画作成担当者や利用者毎の担当職員が、利用者からより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などを確認するほか、家族から電話連絡やLINE機能を活用して意見を聞き、職員の意見やアイデアを出し合いながら話し合い、介護計画を作成している。また、事業所での生活が長くなっている家族からは、「事業所にお任せします」などの意見が多く出される傾向があり、職員から「キャベツの干切りができませんよ」などの意見を具体的に伝え、「それを計画に入れてください」などと言われ、計画に取り入れた事例もある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族様の意向はその都度確認しているが、ホームでの生活が長くなると「そちらにお任せします」という意向が大半を占めるようになってくる	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	これまでの生活歴や、入所後の様子から、慣れ親しんだ暮らしに近づけるように努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ禍となり難しいことが出てきたが、可能な時には、地域のイベント等にも参加している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	個人記録に挟み、個々の支援内容を確認しながら記録を行っている			◎	事業所では、利用者の経過記録ファイルに介護計画を挟み、職員は支援内容を確認しながら、記録できるようになっている。また、計画に沿ったサービスの実施内容は、分かりやすく記載されている。さらに、個別の経過記録には、利用者の様子や発した言葉などをそのまま記録に残すことができている。加えて、職員の気づきや継続して実施して欲しい内容などは、日誌にも記載され、職員間で情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録に基づいたケアが出来ているか分かるように、記録方法を工夫している				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者様が話した言葉はそのまま記入するようにしている			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	モニタリングの時だけではなく、毎月のスタッフ会で意見を出し合っている			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	最大3ヶ月ごとにモニタリング・評価を行い、必要に応じて見直しを行っている			◎	介護計画の長期目標等は、1年または6か月で見直しをするとともに、短期目標等は3か月に1回見直しをしている。また、毎月開催するスタッフ会の中で、利用者の現状確認などのモニタリングを実施している。状態の変化が見られた場合には、医師や看護師から意見をもらうほか、電話連絡やLINE機能を活用して、利用者や家族と話し合い、現状に即した計画の見直しをしている。さらに、入居時には、利用者の様子を確認しながら、1か月の期間で、計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のスタッフ会で現状確認を行っている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	体調や身体状況に変化があった場合は、速やかにカンファレンスを開催し、計画書の見直しを行っている。その際は、家族様や担当医の意見も取り入れている			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月スタッフ会を開催している。緊急時は、その都度開催している			◎	月1回スタッフ会を実施し、職員間で話し合いをしている。また、事業所では、SNSの機能を活用してグループLINEを作成し、管理者が緊急案件と判断した場合には、LINE機能で緊急会議の開催を呼びかけ、休みの職員も参加してもらうことができている。さらに、参加できない職員には、スタッフ会は議事録を確認してもらうほか、緊急案件はグループLINEで、早期に重要事項を伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各棟の話し合いは、リーダーを中心に行い、全員の意見を聞くようにしている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表作成時、希望休のない日を設定している				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録に残すとともに、口頭でも引き継いでいる			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	情報伝達には基本的に日誌を使用し、出勤時はまず日誌に目を通すようにしている。日誌に目を通すことで、申し送り事項が確認出来るよう、日誌も工夫している			○	事業所では、利用者の様子や家族からの申し送り事項、業務連絡など、工夫された日誌を活用して、申し送り等をしている。また、職員は出勤時等に確認し、確認後には自身の名前の下にチェックを行い、確実な申し送りに繋げている。さらに、緊急の重要事項は、グループLINE機能を活用して伝達をすることもある。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	確認したら、チェックを入れるように欄を設けている。また、家族様とのやり取りは、別紙に記入するようにしている。緊急な連絡事項については、グループラインを活用することになっている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	「その日したいこと」を把握することは難しいが、日々の会話の中から、本人のしたいことを理解し、叶えられるよう努力している	/	/	/	利用者一人ひとりの日中の生活や活動は、職員が声をかけ、利用者自身に自己決定してもらえるよう支援している。また、「体操をしたい、掃除をしたい、〇〇がやりたい、寝たい」など、利用者の希望は様々で、職員は一人ひとりの意向に沿って支援に努めている。さらに、事業所では朝食時間を8時と決めているものの、起床時間等の生活リズムに合わせて、無理強いはせず、10時まで朝食が食べられるよう対応をしている。中には、手伝いたい利用者があるものの、重度化等で難しいため、ペットボトルの蓋を100個用意して色分けをしてもらい、職員は「手伝ってもらって助かった」などの声をかけ、利用者の喜ぶ表情を引き出せるような工夫もしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	月1回のパン販売の際には、好みのパンを選んでもらっている	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	現在、自己決定出来る利用者様が少なく、難しいことが多いが、その人に合った声掛けの工夫を行っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	スタッフ側の都合を優先している訳ではないが、現在は介助を必要とする利用者様が多く、時間的に一人ひとりのペースに合わせ余裕がない	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	習字の得意な方へはメニュー書きをお願いする等、その方が得意とすることを活かした取り組みを行っている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人が好きだったことや、得意としていたことを話題に取り入れ、表情や反応をみながら声掛けを行っている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	日々の業務の中でも、スタッフ同士注意し合い、意識している	/	/	/	勉強会等で、職員は「人権」や「尊厳」等を学び、理解して意識した支援に努めている。時には、業務多忙時で、つい大きな声を出してしまうことも見られる。また、不適切な行為や気になる行為が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、自己反省や再発防止などの対応を心がけている。さらに、耳の遠い利用者にはジェスチャーを用いたり、居室に移動してゆっくりと分かるように説明をしたりするなどの対応をしている。さらに、居室への入退室時には、利用者へ十分な配慮を行うほか、掃除や洗濯物の片づけで、居室に入る場合にも、必ず利用者に声をかけてから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	聞こえにくい利用者様に対しては、ジェスチャーや口の動きで伝えるように配慮している	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ使用時はロールスクリーンを使用し、入浴時にはのれんで見えにくい工夫をしている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	本人が不在の場合は、換気の時間を除き、入り口の戸を閉めるようにしている。出入りする際には、声掛けを行っている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏えい防止は、スタッフ会での指導もあり、十分理解している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	現在、お手伝いしてくれる利用者様は少ないが、掃除等の家事で、出来ることをしてもらっている。「ありがとう」「助かった」というような、労いの言葉かけを行っている	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、掃除など、利用者のできることに差が見られ、言い合いなどの利用者同士のトラブルも見られるものの、早期に職員は間に入るとともに、一人ひとりのできることをしてもらえるような配慮に努めている。また、利用者同士で洗濯物たたみなどを取り合いしないように、事前に家事は、利用者に分かるように担当表を作成して掲示をしている。さらに、毎週火曜日には、元保育士をされていた利用者が、体操や読み聞かせを行うなど、利用者同士で助け合いや支え合う場面も見られる。加えて、介護計画に、読み聞かせなどの支援内容も取り入れて、実践することもできている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士の会話の中で、お互いが励まし合っているのを耳にする	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	週に1度、利用者様中心にレクを行っている。その方は保育士をしていたため、歌遊びや読み聞かせなど、得意とすることで力を発揮してもらっている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	その場の状況に合った対応をスタッフが出来るよう、情報を共有している	/	/	/	

愛媛県グループホームあけぼの

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時はケアマネや他事業所からの情報で把握し、入所後はご本人との会話等から把握するようにしている。知り得た情報は共有している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ドライブで馴染みの場所に出掛ける支援を行っている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	馴染みの場所に出掛けた際、知り合いがいれば声を掛けるようにしている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	コロナ禍となった後も、感染状況をみながら、出来る限り対面での面会を続けている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ禍となり、近場の外出に限られるようにはなったが、その日の利用者様の状態に合わせた外出支援を行っている。天気の良い日には、テラスで昼食を食べたり、体操やレクを行っている	○	△	○	コロナ禍においても、日常的に事業所周辺を散歩したり、感染状況を見計らいながら、計画的に花見などのドライブに出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう努めている。また、正月には、毎年恒例となっている初詣に、利用者全員で出かけることができた。中には、介護計画のサービス内容等に、買い物支援を位置づけている利用者もおり、短時間で近隣の物産販売所に出かけられるよう支援している。さらに、重度の利用者も、天気のいい日にはテラスに出て、外気浴をすることができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地区のサロン参加時は、推進委員さんや、地域の方にお世話になっている	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	テラスでレクや体操を行う際は、参加してもらっている	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族様とお墓参りに出掛けた利用者様がおられた	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修には、積極的に参加している。研修で学んだことは報告書等にて情報共有している	/	/	/	事業所では、「やれることは、みんなでやってもらおう」の考えで、職員は一人ひとりに応じた支援に取り組んでいる。また、職員は利用者一人ひとりの「できること、できそうなこと」を把握し、手や口を極力出さずに、見守りや待つ介護に努めるとともに、場合により一緒に行うようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	楽しみながら取り組めるよう、レクの時に軽い運動になるようなものを取り入れている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは、時間がかかっても待ち、出来ないことを手伝うよう心掛けている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	習字を得意とする利用者様に、毎日のメニュー書きをお願いしている	/	/	/	洗濯物干しやたみなどの家事の役割分担や、献立の記載など、事業所ではほとんどの利用者に役割を担ってもらい、感謝の言葉を伝えている。また、洗濯物干しの際に、衣類のしわ伸ばしができない利用者に、他の利用者がしわ伸ばしを手伝うなどの助け合う場面も見られ、職員は少しでもできる役割づくりに取り組んでいる。さらに、習字の上手な利用者には、職員の子供の書き初めの手本を書いてもらうなどの出番づくりもできている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その方のレベルに合った役割やお手伝いをお願いしている	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	コロナ禍となり、続けられているのは、地域サロンのみとなってしまった	/	/	/	

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	男性利用者様には、毎日髭剃りを行ってもらっている。				<p>整容の乱れや汚れなどが見られた場合には、職員はさりげない支援に努めている。また、重度な利用者にも、家族に好みの髪形や服装などを聞き、本人らしさが保てるよう工夫しながらより良い支援に努めている。さらに、自分で髭剃りができる利用者には鏡の前でしてもらうとともに、利用者ができる範囲までしてもらい、職員が剃り残しなどのフォローをしている。加えて、2か月に1回、訪問美容の来訪があり、髪型を整えている。</p>
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	プランに取り入れ、洋服選び等をスタッフと共に行っている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を設ける等、自己決定しやすいよう工夫している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	通院や行事の際には、お気に入りの衣類や華やかな衣類を着てもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	汚れた場合はすぐに着替えるようにしている。また、身だしなみに也十分配慮している	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	月2回の訪問カットを利用している。希望があれば馴染みの店でカットは出来るが、希望する方がいない				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	着脱時に苦とならない物を選ぶようにしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	十分理解しており、調理の匂いや味付け、盛り付けの彩にも配慮している				<p>栄養委員である職員が、利用者の好みや食べたい物などを確認しながら、献立の作成と食材の買い物を担っている。利用者は、野菜を切ったり、味見してもらったり、お盆拭きをするなど、できることを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。生魚などが苦手な利用者には煮つけなどに変更するほか、アレルギーのある利用者には、代替品を用意している。節分には、巻きずしを利用者と一緒に関くなど、季節を感じながら、食事が楽しみになるような工夫にも努めている。食器は、利用者自身に使い慣れた物を持参してもらうほか、湯飲みは利用者が飲んだ量が分かるように、事業所で用意した物を使用している。現在のコロナ禍において、食事の際に、職員は黙食で、サポートや見守りをしながら、利用者と一緒に食事を摂ることができている。また、調理時には、利用者は食堂で過ごすことが多く、匂いや調理風景を見て、食事が待ち遠しくなるような雰囲気を感じることができている。さらに、定期的に、栄養委員会の中で調理方法を職員間で話し合い、栄養バランスに偏りがないよう配慮している。加えて、栄養士までには相談していないものの、治療食などは主治医に相談しながら対応することができている。</p>
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	台拭きやお盆拭き、ごぼうのさがき等、出来ることを一緒に行っている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	能力に合ったお手伝いを頼み、感謝を伝え、達成感が得られる声掛けを行っている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	まずは、入所時の情報で把握し、ホームで生活する中では、食事時や下膳時の食べ残しを把握し、情報共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	旬の食材を大切にしたり献立作りを心掛けている。また、郷土料理も取り入れている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食にも、おいしく見える盛り付けの工夫をしている。利用者様のその日の体調に合わせた形態で提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時は使い慣れた物をお願いしている。入居後は、ご本人の状態に合わせた、使いやすいものへ変更している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	各テーブルが見守りできる位置にスタッフが座れるよう、利用者様の席の配置も工夫している			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所は棟の中心にあり、家庭的な雰囲気を大切にしている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分摂取量については、1日トータル1000ml以上摂れるようにしている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一度に多くの量が食べられない利用者様に対しては、回数を分けたり、栄養補助食品を取り入れたりしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養委員を中心に献立を、スタッフが交代で考えている。バランスのとれた食事内容になるよう、心掛けている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板、包丁は食材ごとに使い分け、使用後は消毒を行う等、日々徹底した管理をしている				

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	これまで口腔ケアの研修に積極的に参加してきており、理解出来ている				職員は、勉強会等で口腔ケアの重要性を学び、理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は洗面台で歯磨きなどの口腔ケアを実施している。また、利用者一人ひとりの口腔内状況を、職員間で情報共有できているものの、書面にまでは残すことができていない。歯科を受診している利用者は、歯科医から状況記録の提供を受けることができている。さらに、事業所では、自分で歯磨きをしている利用者の口腔内の状況を、「職員が1日1回はチェックをする」と決めたものの、実現が難しいため、1週間に1回程度に回数を減らすなど、定期的に全ての利用者の口腔内を確認し、記録に残せることを期待したい。加えて、異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げるなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	現在は何らかの介助を要する方が多く、毎食後スタッフが口腔ケアをサポートしている為、きちんと把握できている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診し、指導があった際は取り入れている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	側で見守りしながら支援し、夜は預かり消毒している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯ブラシ、口腔ケアウエットティッシュ、舌ブラシ、スポンジブラシ等、個々に合ったものを使用し、口腔内の清潔保持に努めている				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常があれば、歯科受診に繋げている。受診が難しいは、訪問歯科を利用することもある				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解しており、出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している				入居時に、紙パンツを履いている利用者が多いものの、事業所では一度布パンツで過ごしてもらい、排泄状況の確認を行うほか、利用者に合わせた排泄用品の使用や必要性を見極めている。また、事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、職員は声かけやトイレ誘導をしている。中には、夜間にポータブルトイレを使用するほか、夜間のみテープ止めのオムツを使用している利用者もいる。さらに、排泄委員を中心に、適切な排泄用品の使用を話し合うほか、毎月の排泄用品の料金も合わせて検討をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、食事・水分量、運動量の低下がないよう、日々気を付けている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々に合ったタイミングでの声掛けや誘導を行っている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	◎	個々の排泄パターンに応じたタイミングでの声掛け、トイレ誘導を行っている。使用パッドについては、排泄委員を中心に、その都度見直しを行っている	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	栄養状態、内服等、多方面から可能性を探り、話し合いを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	そわそわし始めたり、排泄のサインが見られた場合には声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄が出来るようにしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	使用パッドを変更する際には、試用期間を設け、それを基に話し合いや変更を行っている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	パッドはその方に合ったものを、個々に注文している。時間帯や状態に合わせて、使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	起床時の水分補給、毎日の乳製品、体操等、便秘予防に努めている。必要に応じて薬を処方してもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	介助を必要とする人が多く、週3回の入浴が出来るよう、曜日や回数は決めている。温度や入る順番等は、個々に合わせて対応している	◎		○	週3回、利用者は入浴することができる。中には、体調面を考慮して、週2回に入浴制限をしている利用者もいる。希望者には、毎日の入浴にも対応可能としているものの、現在そこまで希望する利用者はいない。また、事業所として、入浴できる曜日や入浴できる時間帯を15時30分から17時30分の間と決めているものの、入浴の順までは決めておらずに、その日の利用者に決めてもらっている。さらに、入浴を拒む利用者には、日にちや時間帯を変更するなどの工夫をしながら、入浴してもらおうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	会話を楽しみながらも、リラックス出来るよう支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の状態に合わせた介護用品を使用し、安全な入浴が出来るようにしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否が強い場合には、時間や入浴日を変更する等、臨機応変に対応している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日のバイタル測定で確認している。入浴時は全身状態の観察を行っている				

愛媛県グループホームあけぼの

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の記録やケアから把握できている	/	/	/	眠剤などを服用している利用者があるものの、体操や散歩、日光浴などを取り入れながら、ほとんどの利用者は、夜間に良眠することができている。中には、入居前から眠剤を服薬していた利用者が、睡眠状況を確認し、医師と相談しながら、服薬を止めることのできた事例もある。また、夜間不眠を訴える利用者には、職員がその都度対応をしている。さらに、不眠が続く場合には、体調面を考えて、主治医に相談をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	運動や体操、日光浴を取り入れ、活動量がアップするよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	現在服用している利用者様はいない。必要に応じて主治医に相談しているが、基本的に眠剤は使用していない	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ウトウトしている方がいれば、入室での休息を促している	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	コロナ禍で面会が制限された現在は、LINE電話を活用している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	スタッフが代筆したり、電話の際は側で会話のサポートしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話をする際は、周りに人がいない静かな場所で話ができるよう、配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙等は本人と一緒に確認し、居室に飾っている。また、希望があれば電話等で返信している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	現在はLINE電話を活用している。お互いが連絡を取りやすい時間を、あらかじめ日程調整している	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	規則で、お金は事務所管理となっている。希望時は、スタッフ付き添いのもと、自由に使うことができる	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	コロナ禍でめっきり回数は減ったが、個別に買い物の機会は設けている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	スタッフが同行し、必要な支援を行っている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	個人の金銭所持は認めていない。入所時にご家族様に説明し、了承して頂いている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に了承のもと、事務所管理としている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	使用内容、金額を個別の出納帳につけ、毎月ご家族様へレシートと共に送付している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	突然の外出や地域外の緊急受診にも、ご家族様と協力しながら、出来る限り対応している	◎	/	○	コロナ禍以前は、町外の病院受診は家族の同行支援をお願いしていたものの、現在コロナ禍において、状況に応じて、職員が同行するなどの工夫をしている。また、現在のコロナ禍において、外出や面会に制限があるものの、介護計画の中に希望や要望を取り入れながら、可能な範囲での対応に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	花壇等には季節の花を植え、利用者様と一緒に手入れしている	◎	◎	◎	事業所の玄関は、駐車場を挟んで道路から見える場所にあり、気軽に入 入りができる雰囲気となっている。また、玄関先やテラスには季節の花が植 えられ、手入れが行き届いていた。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節を感じられる飾り付けやレイアウトを心掛けている。また、家庭的な雰囲気が出るよう、どの家庭でも使用している物品を使用するようにしている	◎	○	◎	共有空間は、掃除や消毒が行き届き、快適な空間となっている。玄関には 雑飾りが置かれるなど、季節に応じた飾り付けが行われている。また、食 堂に面するトイレの前には、スクリーンカーテンが設置され、トイレの出入 りは見えないような工夫をしている。さらに、事業所では壁を装飾する担 当職員を決めており、雑飾りの刺繍のタペストリーや利用者の書初めなど の飾り付けをしている。加えて、手作りの日めくりカレンダーが設置され、 毎日利用者が日付を変更している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の掃除で清潔保持に努めている。毎日掃除出来ない特殊な場所は、日程を決め定期的に行っている					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられるような飾り付けを行っている。また、四季を感じられる場所を選び、外出支援を行っている					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いの場所で過ごしてもらえよう配慮している。共有スペースや居室を自由に行き来できるようにしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	戸の前のにれんやロールスクリーンを設置し、見えにくい配慮をしている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	入所時に使い慣れた物の持参をお願いし、ご本人の好みに合わせた、居心地良い空間づくりを 心掛けている	◎			居室には、利用者が使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができる。中には、家族写真や仏壇、専用の椅子を持ち込み、利用者に合わせて空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレが分かりやすいよう、貼り紙をしている。廊下には手すりが設置してあり、安全に生活できるようにしている			◎	食堂のテーブルの利用者が座る場所に、家族写真をテーブルクロスの下に敷き、席を間違えないような工夫をしている。また、利用者が迷わないように、分かりやすいトイレなどの表示をしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレや浴室等共有の場所には貼り紙をしている。また、各居室入り口には、表札をかけている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、脳トレ、塗り絵用具など、いつでも手に取れる場所に置いてあり、自由な時間に取り組んでいる					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	22時～6時までの夜間については、防犯対策として施錠しているが、それ以外の時間帯については施錠していない。ユニット間の出入りも自由に行える	◎	◎	◎	代表者や管理者、職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関やユニットの出入り口の施錠はしていない。また、夜間は防犯のため、22時から7時まで玄関の施錠をしている。さらに、日中は玄関が開くとチャイムが鳴り、職員は利用者や来訪者の出入りを把握しやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠しない取り組みの説明を行うと共に、それに伴う離脱のリスク等についての説明も行い、同意を得ている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	各ユニットから玄関の出入りが見えにくいいため、人の出入りが分かるよう、チャイムを設置している。外出傾向のある利用者に対しては、常に居場所の確認と把握を行っている					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	常に把握しておくことは難しいため、フェイスシートや通院・服薬状況を1冊のファイルにまとめている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタルだけでなく、いつもと変わった様子が見られれば、引継ぎと記録を行っている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医、薬局を統一することで、いつでも相談が出来る関係性が築けている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ホームのかかりつけ医はあるが、家族の希望する医療機関への受診も行っている	/	◎	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族が遠方であったり、受診介助が難しい場合は、ホームの協力医療機関を紹介し、ホームが受診介助を行っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	協力医療機関への受診は基本ホームで対応しているが、主治医からの説明がある場合には家族同行をお願いし、主治医から直接説明が聞けるような環境を整えている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は速やかにサマリーを提出し、ホームでの様子や対応方法が分かるよう、情報提供を行っている	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の状態把握に努め、家族様とも連絡を取り、医療機関と相談しながら、早期退院できるよう努めている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	受診時には病状だけでなく、普段の様子も伝えている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週2回看護師が勤務しており、利用者様の変化や気づき等は、日々の記録から把握できるようにしている。また、緊急時には電話連絡し、指示を仰いでいる	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師、協力医療機関、薬局にいつでも相談できる体制を整えている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル測定や引継ぎ等で状態変化を知り、些細なことでも記録、引継ぎを行うことで、早期発見・治療に繋げている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	受診記録や服薬状況を確認することで、理解している。1冊のファイルにまとめ、いつでも手に取れる場所に置いてある	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬はホームで管理し、服薬介助時には名前を読み上げ、誤薬防止に努めている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服に変更があった場合は引継ぎを行い、いつもと変わった様子が見られた場合には、主治医や薬剤師に相談している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方内容に変更があった場合には、日誌でも引継ぎ、服薬後の様子観察・記録を行っている。必要に応じ、情報提供している	/	/	/	

愛媛県グループホームあけぼの

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に、その時点での終末期の意向を聞き、看取り指針について大まかに説明している。状態に変化があった場合には、その都度意向を聞くようにしている	/	/	/	事業所には、「グループホームにおける重度化および看取りに関する指針」があり、入居時等に管理者が家族に、「家と同じように過ごし、穏やかな最期が過ごせるように支援します」などと説明をしている。事業所では、看取り介護に対応しているものの、この一年間に支援した利用者はいない。また、診察や往診時に、医師が看取り介護の必要性を判断した場合には、医師から家族に説明を行うとともに、対応方法などを職員と家族で話し合いをしている。さらに、法人・事業所として、対象者の手順書の作成があり、職員は手順書に定められた支援方法を確認しながら、対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご本人、家族の意向を踏まえた上で、主治医に相談している。その後、主治医、家族を交え、今後について決め、スタッフで情報共有を行っている	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態に変化がある度に話し合いの機会を持ち、スタッフの負担が軽減するように努めている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	「できること・できないこと」を明確にし、説明している。対応方針については、看取り指針の内容に沿って説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者の受診については、主治医や家族と相談の上、往診に切り替えている。状態に変化があった時には、些細なことでも報告し、いざという時に備えている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	心配事や不安があれば、相談にのり、不安が少しでも軽減できるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症の研修には必ず参加し、学んだことをスタッフ会や研修報告書にて共有している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症マニュアルがあり、定期的な見直しと訓練を行っている。新型コロナウイルス感染症マニュアルも作成している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新情報の入手は出来ている。必要な情報は、スタッフに周知している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域の感染状況を早期に確認し、早めの対策をとるよう徹底している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	新型コロナウイルス感染症が流行したことにより、感染予防が当たり前の日常となった。来客者についても、感染予防の徹底をお願いしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	スタッフと利用者家族という立場ではあるが、本人にとってどうかという視点で一緒に支えていけるような関係づくりに務めている				コロナ禍において、家族が事業所に来訪する機会はないものの、リモート機能を活用したオンライン面会に対応するほか、事業所内で実施した敬老会やクリスマス会などの行事の写真を送付し、利用者の近況を伝えていく。感染縮小期には、ベランダなどの屋外で、制限を設けたうえで、家族との面会対応もしている。また、家族には、SNS機能のLINE登録をしてもらい、動画撮影をした利用者の様子を配信できるようになり、家族に喜ばれている。さらに、毎月、事業所便りを作成し、コメントを添えて家族に送付している。令和2年1月に、事業所の経営法人が交代した際にも、事業所便りの号外を作成し、挨拶などを掲載した事業所便りを送付している。事業所では、LINE機能を活用して、家族との連絡を取り合う機会が増え、家族から「連絡が取りやすくなった」などと好評を得ている。加えて、LINEでの連絡が難しい家族には、今までどおり、電話連絡で対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍で面会制限が当たり前となり、気軽に訪れることが出来ない日々。取り入れているオンライン面会が気軽にできるよう、毎月のお便りなどでお知らせしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ禍となって以降、これまで行っていた家族参加の行事は開催出来ていない		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えられている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の便りに、コメント欄をつくり、担当者から直筆で報告している。また、SNSやオンライン面会を取り入れたことで、手軽に写真を送ることが可能になったり、遠くの家族様とも顔を見て話ができるようになった		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご本人の状況報告だけにならないよう、家族様の意向や不安も聞くようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	良好な関係性が保てる距離感を大切にしている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	スタッフの入れ替わりや施設運営の変更点などは、毎月のお便りにて報告している		◎	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族様を招待しての行事の時間が交流の場となっていたが、現在はできていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	事故報告が出た場合には速やかに報告すると同時に、今後の対応策や起り得るリスクについても説明している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	SNSを取り入れたことにより、気軽に連絡が取りやすくなったと感じる。また、同じことを家族様からも言われた			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時、契約書及び重要事項説明書の内容に沿って説明を行い、理解を得ている。その他、内容に変更があった際には、書面にてお知らせしている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	体調悪化からホームでの対応が困難となり退居した事例があるが、家族・主治医・関係スタッフで十分な話し合いを行い、決定した				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	内容に変更があった場合は、その都度文章にてお知らせしている。問い合わせがあった場合に対応が出来る体制を整えている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時には、当初の事業主が説明を行っている。令和2年に事業主が交代した際には、説明した	/	○	/	コロナ禍においても、事業所では感染対策を講じながら、婦人会主催の地域サロンに、毎回4～5名の利用者や職員が参加し、交流することができている。また、事業所周辺の散歩時には、あいさつや会話を交わしたりしている。さらに、事業所は、小・中学校の通学路に面しているため、利用者は登下校の様子を見守ることができている。加えて、今年度から、地区の区長と民生委員が交替したため、管理者は、「今後、積極的に関わりを持っていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	地域サロンが開催される際には、感染対策を徹底しながらの参加を継続している。顔なじみとなった地域の方とは、日常的に挨拶や会話を交わしている	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議の方や婦人会の方を通じて、支援の輪が広がっている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	登下校中の小・中学生が気軽に挨拶をしてくれたり、手を振ってくれたりしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ウォーキングされる方や、犬の散歩をされる方と挨拶を交わしたり、短い会話をしたり、日常的なお付き合いが出来ている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	コロナ禍となり、ホームに招いての交流の機会はなくなってしまったが、婦人会の方が、クリスマスにケーキを持って来てくれるようになった	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域サロンへの参加だけになってしまったが、今後でもできる限り参加し、交流の場を提供していきたい	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地元の良心市に買い物へ出かける際には、協力を得ている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	推進会議には、地区の方を中心とした参加がある。感染防止の観点から、ホームでは開催せず、地域のコミュニティセンターを借り、開催するようにした。	x	/	△	運営推進会議は、家族や区長、民生委員、保育所、サロンの代表、近隣住民、町担当者等の参加を得て開催している。令和3年度はコロナ禍で感染予防のため、地域のコミュニティセンターを活用して、集合形式で会議は2回実施できたものの、残りは書面開催となっている。会議は、事業所外で開催したため、感染対策で、利用者は会議に参加していない。また、家族には会議の説明までは行うことができたものの、コロナ禍となり、その後の対応までには至っていない。さらに、議事録は事業所玄関に配置し、閲覧を可能としている。加えて、会議の中ではあまり参加メンバーから意見が出されないため、会議終了後の雑談で、管理者は意見や要望を聞くようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	ホーム近況報告や利用者の入退居状況等について報告し、外部評価実施後は、評価結果や目標達成計画について報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告にならないよう努めている。ホームからの報告が終わった後の、雑談の時間を大切にしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	予定が立てやすいよう、年度初めに開催日を決めている（偶数月の第4木曜日）講師を招き、オンラインでの勉強会を行った	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	ホーム玄関に置いており、いつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は玄関ホール、各棟の入り口に掲げ、常に意識し、理念に沿った支援が行えるよう努めている。				昨年末に、代表者は全ての職員と個人面談を実施し、意見や要望等を聞くことができています。法人として、毎月管理者会を開催し、管理者は代表者と話す機会があるほか、代表者は毎月実施する事業所のスタッフ会にも参加するとともに、来訪時には利用者や職員に声をかけています。今後も、個人面談を継続して実施するなど、職員のストレスの軽減や働きやすい職場環境づくりに努めることを期待したい。さらに、2か月に1回、オンライン機能等を活用した勉強会を実施するなど、職員のスキルアップに努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	毎月のお便りに理念を書き入れるようにした		○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修への参加希望の際には、優先的に勤務調整を行っている				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月のスタッフ会で勉強の機会を作っている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	個人面談の機会を設けてくれたことで、意見は言えたが、希望する給与水準には達していないのが本心。今後も意見を出し合いながら、良い関係性が気づけて行けたらと感じている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	オンラインの研修がほとんどとなってしまったが、希望する研修には参加させてくれている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	代表者交代時には意見交換がなかなかできなかったが、スタッフが思いをぶつけたことで少し良い方向へ改善されたのではないかと思う		◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	権利擁護の研修に参加し、理解できている				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	全体で話し合うべきことは、スタッフ会の議題にあげ、見直しを行っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉遣い、声のトーン等、不適切なケアについては、スタッフ間で注意し合うようにしている。改善が見られない場合は、上司に相談し、話し合いの機会を設けている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調不良時等は、休養が取れるよう配慮してくれている。管理者は現場のことを理解している。代表者にも、もっと現場を知ってもらいたい思いはある				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的な勉強会を開催することで、理解に努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月毎に身体拘束等適正対策委員会を開き、見直しを行っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行うことで起こる、本人に与える影響を理解して頂けるよう、説明するとともに、身体拘束を行わないことで起こり得るリスクについても説明している				

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度があることは知っていたが、現在まで該当者がなく、学ぶ必要がなかったため、積極的な理解はない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要であれば、管理者が対応している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要であれば、紹介できる体制は整えている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルはいつでも確認出来るようにしているが、適宜検討は行っていない				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	毎年、救急訓練を受講し、AEDの使用法についても学んでいる				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	些細なことであっても報告書を記入し、話し合いを持ち、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	報告書や日々の生活から考えられるリスクを把握し、その都度話し合いの機会を持つことで、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルの見直しを行っていなかったため、今年度、見直しを行った				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しての窓口を設け、マニュアルに沿って対応が出来るようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、速やかに話し合いを行い、改善方法について話し合うことになっている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日ごろの会話から聞き取っている。代表者にも、利用者様と関わる時間を持ってもらっている			○	日々の支援の中で、管理者や職員は、利用者から意見を聞き、対応をしている。事業所には、自分の意見を伝えることのできる利用者が多く、代表者に直接「便座が冷たい」などと伝えることもある。また、家族には、面会時に直接意見を聞くほか、電話連絡やLINE機能を活用して、意見や要望を伝えることのできる機会を設けている。さらに、管理者は職員と一緒に業務をしており、日常的に職員から意見を聞くことができています。管理者は、「利用者の立場に立った支援ができています」と感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	プラン更新の際には、必ず要望や意向を聞くようにしている。現在は、電話だけでなく、SNSを活用している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居時に説明しているが、適宜の情報提供は行っていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	毎月のスタッフ会への参加はある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	スタッフ会、利用者カンファレンスで検討している			○	

愛媛県グループホームあけぼの

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価で確認している				外部評価は、管理者や計画作成担当者を中心に、各ユニットで作成している。また、サービスの評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告をしている。新たに、法人・事業所として、ホームページを作成し、会議の中で報告をしている。コロナ禍において、取り組み状況の確認などのモニター機能の協力までには至っていないため、コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけたり、来訪時に、サービスの取り組み状況などの意見をもらったりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題についてはスタッフ全員で改善に向けた取り組みを行っている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	達成に向けた取り組みを行っている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果については、推進会議の際やご家族様への文章にて報告している	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	スタッフ会、推進会議で、取り組みの確認と見直しを行っている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、必要に応じて見直しを行っている。				定期的に、事業所では避難訓練等を実施している。また、運営推進会議の中で、地域住民や消防署等と大雨の災害時の避難などを話し合う機会を設けることができる。さらに、法人・事業所として、災害時の連絡網は作成することができている。事業所では、災害発生時に、地域の協力・支援体制までは構築できていないため、コロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力をしたり、運営推進会議を活用して、避難訓練を実施したり、事業所の訓練に地域住民や家族の参加を呼びかけるなど、少しずつ協体制づくりができることを期待したい。加えて、利用者家族等アンケート結果から、家族や地域住民から、災害への備えの十分な理解が得られていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、訓練の様子を周知したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲載したりするなど、職員間で周知方法を検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間想定の避難訓練、その他非常災害を想定した訓練についても、定期的に行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備の点検は、年2回業者をお願いしている。非常用食料や備蓄品については、一覧表を作成し、点検している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進委員メンバーに協力をお願いしている。また、今年度から、月1回地域ケアの研修に参加することになった	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域ケアの研修に参加し、情報交換をしている。今年度は、オンラインでの開催となっている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域サロンに参加した際、ホームで行っている体操やレクを紹介している				事業所では、利用者家族の相談支援を行っている。事業所が地域のケア拠点としての取り組みを啓発できるように、地域サロンなどを活用しながら、地域の高齢者や認知症の人、その家族等の相談対応ができることを、周知されることを期待したい。また、地域のグループホーム主体で、地域住民が参加できる研修会の開催を計画していたものの、コロナ禍において、開催までには至っていないため、管理者は、「コロナが落ち着けば、活動していきたい」と考えている。さらに、町行政等との連携に努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	利用者様家族が認知症となっているが、現在も独居での生活を続けている方がおり、そのご家族様の相談にのっている		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍であり、行えていない。また、利用者様が過ごす生活スペースが狭く、現実的に難しい				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	現在はなくなってしまったが、学校の福祉体験に協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	依頼があれば、地域のイベントには積極的に参加している。現在はサロン参加しか出来ていないが、コロナ禍が落ち着けば、参加していきたい			○	